



笑顔で伸びやかに夢に向かって

大好きです！ 砥用小

R6, 12, 20(金)

～学びの姿と元気を地域へ発信！～

生き生き わくわく

美里町立砥用小学校学校だより

砥用小スタイル！

ある日の掃除の時間、子どもが「〇〇が～になっています」と、担任に相談していました。すると、担任は、子どもの話を最後まで詳しく聞き、意図することを把握してから、「あなたは、どうしたが良いと思いますか？」と応えました。すると、この子どもは「～したら良いと思います」と応え、掃除場所に戻っていきました。この場面を見て、「ありがたい！」っと思いました。

この場面に付け加えると、子どもが、どうしたら良いか思いつかずにいたら、子どもと話しながら、考えられる手立てを理由とともに、いくつか提案します。提案を聞いて、最終的な判断は、子どもがします。これが砥用小スタイルです。ややもすると、子ども達から相談があったときに、つい「～しましょう」や「～したが良いよ」、「～しなさい」等々、最終的な判断を担任がして「指示」しがちになります。この方法だと、上手くいったら先生のお陰、上手くいかなかったら先生のせいというような他者依存的思考、また、大人(本校職員や保護者)の顔色を観ることに長けた子どもを育てることになりかねず、「主体的な学び」を育てることにはなりません。「砥用小スタイル」は、「自分の判断で考え行動する」＝「主体的な学び」の姿を育てることをねらいとしています。この姿を育てるためには、私たち大人(本校職員や保護者)の「トップダウン型のリーダーシップ」ではなく、「サーバント・リーダーシップ(支える)」が必要です。「サーバント・リーダーシップ(支える)」には、支援者の強い信念・熱量が必要になってきます。この強い信念・熱量があるから、ときには長い時間が必要となっても、順調にいかなくても、途中で挫けない粘り強い支援ができます。結果、この「サーバント・リーダーシップ(支える)」により「主体的な学び」に必要な、自己肯定感、困難に負けずに粘り強く取り組む、失敗を恐れない(上手くいかなかったことから学ぶ姿勢)心等の非認知能力が育っていくと考えます。

下記の子も達の姿(写真①と②は、学校 HP で紹介しています)から、仲間とともに「自分の判断で考え行動する」＝「主体的な学び」が育ってきていると思います。写真①は、運営委員会の子も達が、一週間後にある「人権集会」のための準備とリハーサルを昼休みにしている様子です。原稿やプレゼンは、昨年度のものを参考に自分たちで考えて作成したと担当職員から聞きました。練習も、自分たちで行っており、職員は横で見守り、時折、助言しているくらいでした。当日も、見事に運営することができました。写真②は、ちょボラ(ちょこっとボランティア)の様子です。このときの私との、子ども達間でのやり取り(詳細は学校 HP でご覧ください)が秀逸です。写真③は「TOMOTIKKO NEWS」のタイトルです。メディア委員会が動画で砥用小のニュース番組を作り、給食の時間に各教室に放送しました。ニュースキャスター、取材クルー、番組編集等、子ども達で行っています。見事なニュース番組に仕上がっていて、びっくりしました。つい先日、好評につき再放送をしています。委員会を担当する職員に聞くと、数か月にわたって子ども達の準備に付き添い見守りアドバイスをしてきたそうです。

